

我が国の官民によるアゼルバイジャンの医療分野支援

世界保健機関(WHO)において設立された国際的な結核対策のための官民ネットワークである「ストップ結核パートナーシップ」とアゼルバイジャンの現地 NGO「公共医療サービス連合」は、富士フイルム株式会社の協力を得て、同社の携帯型 X 線撮影装置の「FDR Xair」をアゼルバイジャン国内で半年間試験的に利用できることになりました。同 NGO によれば、当該装置が同国に導入されるのは初めてであり、この機会を利用して国内で複数の診察イベントを開催して、同装置を有効利用する計画です。

この携帯型 X 線撮影装置は、元々日本国内の在宅医療を念頭に置いて開発されましたが、軽量で持ち運びやすく、充電利用が可能で操作性も優れているため、救命救急センターやドクターヘリ等の救急医療でも利用されています。また、AI を活用した診断が可能である等の利便性から途上国における医療分野でも多く利用されているようです。当地では結核対策のみならず新型コロナ・ウイルス対策としても期待されています。

アゼルバイジャンの医療分野は、日本政府による支援重点分野でもあります。昨年 11 月には、医療機材供与に関する無償資金協力(2 億円)の交換公文に署名しました。また、当館では、草の根・人間の安全保障無償資金協力により、毎年アゼルバイジャン国内各地で診療所の開設を支援しています。

このような我が国官民によるアゼルバイジャンの医療分野支援は、当地の政府、国民にも好意を持って受け止められており、今後も多様な形で支援を継続し、二国間関係のさらなる発展に資することが望まれます。

(以上)